

春の交流会に参加して

横浜市

竹田ミヨシ（上真砂出身）

去る四月十三日長野を経由し、早目に高田駅に到着すると、駅前はお花見の雰囲気包まれていました。

まず、寺町を散策し、親鸞聖人居多ヶ浜上陸八〇〇年記念行事が催されている浄興寺を参拝しました。ここに来ると心の安らぎを覚えます。上越市立総合博物館では、さくらの雅。李朝のぬくもりの展示品を鑑賞しました。桜花爛漫の高田公園では、前日から場所を準備していただき、NPO法人食の工房ネットワークの高京貴子さんの手料理が並び、上越の酒、ワイン、三野屋菓子店の元祖継続たんこ等、故郷の味を満喫させてもらい、ふるさと上越ネットワークの皆さんとお花見を楽しみました。

宿泊は板倉区のやすらぎ荘でした。ここでも暖かい持て成しを受け、山の幸、海の幸の料理と、泉質異なる二つの温泉で

のんびり、ゆったり過ごし、翌日の朝部屋の窓を開けると澄んだ空気が吹き抜け清々しい朝を迎えました。

この日は地元歴史に詳しい宮腰英武先生（板倉郷土史愛好会会長）が案内して下さいました。人柱供養堂は、言い伝えによると、一人の旅僧が山津波から人々を救うために人柱になったといわれます。ざるがめを被り坐禅を組んだままの姿で成仏された八〇〇年前の鎌倉時代の人柱であることが調査により証明され、供養堂が建立されました。山懐を見晴らす所に建つ供養堂を私達も参拝しました。供養堂の前には本格的な地すべり資料館があり、地すべりのメカニズム、地すべりを防ぐ対策等の展示物を見学しました。

山寺薬師堂には、木造薬師如来坐像、釈迦如来坐像、阿弥陀如来坐像の三体が安置され、県の文化財に指定されています。

今年も五月八日の例大祭には大勢の参拝者が訪れたことでしょう。その薬師堂の周辺には早春を告げる可憐なカタクリの花が群生し、春のそよ風にその花びらがゆれていました。薬師堂を下ると延命清水があり、その水量は年中変わらず、私達が訪れた時も、その水を汲んでいる人達に出会いました。

糸しんの里記念館には、浄土真宗（一向宗）の開祖 親鸞聖人の妻である恵信尼の年譜が展示されています。その年譜から抜粋すると、越後屈指の豪族三善為則（教）の娘として、寿永元年（一一八二）に誕生し、娘時代は京都で生活したらしい。結婚後子供にも恵まれ、京都に住む末娘覚信尼へ送った建長八年（一一五六）から文永五年（一一六八）までの十二年間の手紙など、この年譜から恵信尼の人生の一部分を知ることができました。

増村朴斎は、有恒高校の前身、有恒学舎の創立者である。増村朴斎記念館には、青少年教育に貢献された偉大な足跡の資料が展示されています。中村十作記念館では、人頭税という税をはじめて知りました。中村十作は、この税の廃止に尽力された人物です。

充実した二日間でした。今日の交流会では上越市それぞれの地域の歴史を知る機会に恵まれたことを嬉しく思い感謝します。ありがとうございました。



妻を楽しむ竹田さんと夫



布袋さんも参加？





竹田耕一さんの乾杯の音頭で花見の宴終了





人柱供養堂



地すべり資料館





延命清水を楽しむ



地すべり資料館



薬師堂の700年大杉の参道



薬師堂



説明の宮藤先生



山寺薬師三尊像



中村十作記念館



あしんの里記念館